

昭和の

糸島



—202—

加布里山笠の披露

昭和60年10月

高さ15呎。旧前原町の加布里天満宮に奉納される山笠の高さは、日本一といわれていた。

加布里山笠は、江戸時代に災厄が続いたため、災いの撲滅を祈願するために始まったという。明治、大正時代は博多から人形師が訪れて作られていたそうだが、人員や経費の問題で隔年、3年、5年ごとと開催数を減らし、昭和11年を最後に中断した。

戦後、以前と規模は小さいながら昭和22年、同43年にも奉納された。その後再び中断していたが、同59年に地区の氏子たちが手作りした本格的な大山笠が奉納され、同神社が64・5年ぶりの改築を迎えた同60年、花々しい復活を見せた。

地元の人たちが約一年がかりで製作した飾り山には、表に弁慶と義経、裏に花咲かじいさんがあしらわれた。神社の秋の神事に併せて披露された山笠とともに、旧志摩町の寺山囃子（ばやし）も30年ぶりによみがえり、地元の人々も復活を喜び合っていた。

